一二九六番
今作る　斑の衣　面影に　我に思ほゆ　いまだ
着ねども

一二九七番
紅に　衣染めまく　欲しけども　着てにほはば
か　人の知るべき

一二九八番
かにかくに　人は言ふとも　織り継がむ　我が
機物の　白き麻衣

一二九九番
あぢ群の　とをよる海に　舟浮けて　白玉採ると
人に知らゆな

一三〇〇番
をちこちの　磯の中なる　白玉を　人に知らえず
見むよしもがも

一三〇一番
海神の　手に巻き持てる　玉故に　磯の浦廻に
潜きするかも